

「葬られ、聖書にあるとおり」

三日目に復活し

(1コリント15:3-4)

一、コリント書を読んで

今回取り上げますニカイア信条の言葉は「葬られ、聖書にあるとおり三日目に復活し」です。この文言を見ますと、あるいは聞きますと、聖書を読んでいる方であるなら、「あの箇所と似ている」と思うはずが、似ている箇所が、コリント人への手紙第一15章3節、4節です。すなわち、「私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであつて、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと」です。

では、コリント書とニカイア信条とを比べてみたいと思います。似ている文言は「聖書に(書いて)あるとおりに」です。元になったと考えられるコリント書は、「私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと」と「三日目によみがえられたこと」の双方に対して「聖書に書いてあるとおりに」と語られています。これに対して、ニカイア信条が「聖書にあるとおりに」と語っている

のは「三日目に復活し」だけです。そういうわけで、ニカイア信条が強調しているのは、キリストの復活の出来事です。

二、復活をめぐる

そこで、ニカイア信条が強調する、キリストが「聖書にあるとおり三日目に復活し」たことについて、もう少し掘り下げてまいります。

ですがその前に、「葬られ」を押さえておきたいと思えます。なぜ、ニカイア信条には「葬られ」なる言葉があるのでしょうか。あるいは、コリント人への手紙に「葬られたこと」なる文言があるのでしようか。「葬られ」は、人が死んだことを確認する言葉です。地上におけるその人の人生が終わったという意味です。しかも、旧約聖書から引き継がれたヘブライ的な考え方によれば、人が死んだら霊魂は残りません。人が死んで霊魂が残ると考えたのは、ギリシア思想です。したがって、人が死んで葬られたということは、すべてが終わったということになります。その、終わってしまった人を神が復活させられた、というのが復活です。そういうわけで、死と復活はつながっているのではなく、切れています。

しかし、切れていると言っても、イエスがよみがえられて別人になったのではありません。トマスに向かって「あなたの指をここに当てて、わたしの手を見

なさい。手を伸ばして、わたしの脇腹に入れなさい。信じない者ではなく、信じる者になりなさい」(ヨハネ20:27)と言われたように、復活した主イエスは十字架にかかって死なれた姿した。

そうは言っても、死と復活は、切れています。イエスが十字架で死んだとは言うものの、仮死状態であつたのではないからです。死んだのです。ヨハネの福音書11章に書かれているラザロも同じです。ラザロは死んで墓に葬られ、四日も経っていました。腐敗が始まった期間です。しかし主イエスはラザロを生き返らせました。それは、やがて起るイエスの復活の予表となりました。ただし、ラザロのよみがえりは、肉体のよみがえりであり、イエスのよみがえりとは異なります。イエスのよみがえりは、壁を突き抜けることもできた、新しいからだへのよみがえりでした。

三、聖書が語っている

そして、何よりもたいせつなことは、キリストの復活は聖書が語る中心的なメッセージであることです。それは、復活したイエスの言葉に見いだすことができます。聖書箇所は、ルカの福音書24章25節から27節です。主イエスが復活なさった日の夕方、二人の弟子が失意の内に、エルサレムからエマオという村に向かう途上のことでした。復活のイエスが二人に現れられて、会話が始

まります。二人はイエスが十字架にかかって死に、すべてが終わったと思っていました。そこで主イエスが二人に語られました。「ルカ24:25-27」ここでイエスは彼らに言われた。「ああ、愚かな者たち。心が鈍くて、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち。キリストは必ずそのような苦しみを受けて、それから、その栄光に入るはずだったのでありませんか。」それからイエスは、「モーセやすべての預言者たちから始めて、ご自分について聖書全体に書いてあることを彼らに説き明かされた。」と。聖書、すなわち旧約聖書に書かれていることの中心はキリストのことであると語られたのは、だれだったのでしょうか。復活の主イエス・キリストです。すなわち、神御自身が、聖書の中心はキリストの受難と復活であると語られたわけです。

したがって、この部分が欠けてしまいますと、すなわち復活の命にかざれていることを忘れてしまいますと、命のないキリスト教になってしまいます。教会を支えているのはキリスト教主義ではなく、キリストご自身です。と言うことは、どうしても聖霊の御助けが必要となります。教会は、全体としても、あるいは一人ひとりにおいても、聖霊に満たされなければ、命を保つことはできません。